

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校理念】「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ

【教育方針】

1. 「鍛える」 頑張ることができる力（心・体・知のトータルバランス）
2. 「見守る」 十人十色の個性と成長、集団の力
3. 「高める」 豊かな教養・人権感覚・国際感覚・他者貢献

【めざす学校像】

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1. 学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成を図る
2. 能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する
3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切に、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

2 中期的目標

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する

1. 学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成

- (1) 学力向上を図るための組織的な体制を新たに構築し、取組みを継続する
- (2) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定
- (3) テンミニッツの活用で学習意欲・学習習慣を身につける
- (4) ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る
- (5) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす
- (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実
- (7) 新しい学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策

※大学入学共通テスト 対全国平均得点率10%アップ（令和元年度 センター試験全国比較5%アップ）（H295%・H305%・R15%）

2. 能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する

- (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む
- (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う
- (3) 人権教育や総合的な探求の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神や国際感覚の育成を図る
- (4) 生徒のコミュニケーション能力（文章や情報を読み解き対話する力）を向上させる取組みを充実させる
- (5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨
- (6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進

※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（R1 89.9%）を令和4年度には92%にする。

（H29/76%・H30/87%・R1/89.9%）

「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率（R1 84.7%）を令和4年度には92%にする。（H29/84%・H30/82%・R1/84.7%）

3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切に、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

- (1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくり
- (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの定着（各教科・学年・分掌）
- (3) 課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る
- (4) 教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる
- (5) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する
- (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒編】</p> <p>○質問全15項目（今年度独自の質問1項目を除く）のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80%を超えた項目は、今年度13項目（R1 H30H29ともに9項目）だった。また、すべての項目の平均値は過去3年においてポイントは向上している。</p> <p>○80%を超えなかった項目は「計画を立て家庭学習…」72%、「スケジュール管理し、行事部活動と学習の両立」70%と自己管理の面で悩んでいる生徒が多くいることが大きな課題である。</p> <p>○「自分は寝屋川高校生であることを誇りに思う」の項目が低いことが課題のひとつではあったが、77%から82%と向上しており、様々な学校生活を通じて自己肯定感を高めることにつながっていると考える。コロナ禍で様々な制限がかかる中、オンライン授業の充実や進路指導など自己実現につなげていくための工夫が必要である。</p>	<p>【第1回】令和2年7月27日（月） 16:00～17:00 （出席者）4名 （事務局）9名（校長、教頭、事務部長、首席2名、指導教諭2名、教諭2名）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の委員・事務局の紹介および会長・副会長の選出 2. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①学校経営計画および学校評価（寝屋川高校スタンダード、ICT活用など） ②進路実績 ③教科書選定 ④コロナ対応 … 日々の安全管理および学習保障に関する取り組み） 3. 協議 <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川高校スタンダードの実施がコロナ禍では困難だが、生徒・保護者に少しでも早く周知して各学年、各教科における目標達成に向けて取り組んでほしい。 ・大変な状況の中、学校も当初の計画から急な変更に対応できる組織であってほしい。

府立寝屋川高等学校

【保護者編】

- 質問全 15 項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者が 80%を超えた項目は、今年度 8 項目 (R1 10 項目 H30 11 項目 H2911 項目) で、年々減少している。
- 最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という質問では、強い肯定が 52.4% (R1 53% H30 55% H29 55%) とこちらも年々減少している。今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく必要がある。
- 強い肯定が 20%未満の項目は「施設設備・学習環境」8.6%、「授業以外での学力増強の取組み」16.3%、「学習指導による学力の向上」16.5%で 3 項目に増えた。(過去数年は 1 項目「施設設備・学習環境」のみ) 引き続き改善策を講じる必要がある。
- 保護者は、生徒と共に学校行事や部活動など積極的に参加するについて肯定度は高いが、「保護者の期待や願いに応える」は 89.5%と微増。、コロナ禍で厳しい条件の中で保護者からの一定の評価を得ていると考えられる。しかし一昨年度までは 90%台だったので、生徒一人ひとりの自己実現を大切にす取り組みを進めていきたい。
- コロナ禍の中では安全が最優先と考えられるが、その項目である「学校は子どもの健康や安全に十分配慮している」について 86%で昨年の 78.3%より向上しているのは、養護教諭を中心に対策を講じてきた結果であろうと考えられる。
- 保護者全体では昨年に比べると厳しい評価になっている。学力向上、進路実現ならびに教育相談の充実と目に見える形での発信に今後、さらなる取り組みが必要となるであろう。

【教職員編】

- 肯定的な回答が 80%を上回ったのは 4 項目で保護者が 80%を超えた項目は、今年度 8 項目 (R1 10 項目 H30 11 項目 H2911 項目) で、年々減少している。
- 「特別活動や部活動が人間力形成に大きな意味がある」の項目は生徒、保護者、教員共に高いポイントを得ていることは「文武両道」を共通理解として教育活動を推進していくことが肝要であると考ええる。
- 「生徒の健康や安全の配慮」について肯定的な回答が 96%に達したのは養護教諭中心に消毒や生徒への声掛けなどをこれまで実践してきた結果であろう
- 学力向上委員会で寝屋川スタンダードの策定に向けて組織として動き出しているが、コロナ対応に時間をとられたことで「教授表や教材研究になどの自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間確保できている」や「指導内容・方法などの工夫・改善をおこない生徒の意欲喚起に努めている」のポイントの低下にポイント自身の低さにつながっていると考えられる。コロナ禍で GIGA スクール構想に対応するためにはいかに効率よく業務を進めるか検討する必要がある。

- 今年創立110周年を迎える記念事業の費用の一部をコロナ対応に充てられるように支援するので、特に学習に関する支援内容を具体的に示してほしい。
- ・オンライン授業について、まずは環境整備の困難さを浮き彫りにして教育庁に示す必要がある。さらにデバイスの特性を活用した教員の授業力の向上が重要である。
 - ・コロナ対応における危機管理の多様な想定およびコミュニケーション能力の回復にも尽力してほしい。ICT機器の活用により疎外される生徒への対応や学習に対して自律的に取り組む生徒が多いが、困っている生徒への対応などが考えられる。

【第2回】令和3年1月18日(月)書面開催(提出締切日)

1. 報告事項

- ①授業力向上のための取組 ②前期授業アンケート結果 ③進路実績(中間報告) ④学校教育自己診断結果 ⑤人権教育に関する取組

2. 意見聴取内容

- ・教員のミドルリーダーと若手の育成は最重要課題。教員としての「授業力向上」がその先生の全教育活動における指導力につながることで、学力向上委員会を中心に研究授業を計画・実施していることは評価できる。
- ・授業力向上シートにおける目標達成シートの精度の明確性がまだレベルアップできるのではないかと思う。目標を明確にすることで教材として生きると考える。
- ・思考力育成をめざしたテーマでの授業内容の構築はよいと思う。40人全員が主体的にというのは難しいが、個々の力を引き出す雰囲気を作り出せるとよい。
- ・学校教育自己診断アンケートの回収率が低いので、75%は欲しい。
- ・学校教育自己診断アンケートで生徒のポイントが上昇していることは良い。教員に関しては、コロナ禍で微増に転じているのは、皆様の努力ゆえだが、保護者のポイント減は社会状況の厳しさが反映されているのではないかと推察する。
- ・人権教育を最重要課題として取り組んでいることは素晴らしいと思う。生徒にとって貴重な学びの場となるものだと思う。是非継続を望む。

【第3回】令和3年3月1日(月)書面開催(提出締切日)

1. 報告事項

- ①令和2年度学校経営計画の評価及び令和3年度学校経営計画について
- ②授業力向上のための取組 ③後期授業アンケート報告

④新型コロナウイルス感染症関連

- ・修学旅行に関する現状報告
- ・オンライン授業(GIGAスクール構想)に係る進捗状況

2. 意見聴取内容

【R2及びR3学校経営計画】

- ・コロナ禍の中、出来る事出来ない事の間が流動的で大変な1年だったと推察する。1点だけ述べたい。
学校経営計画の「本年度の取組」1. 学力を伸ばす について
寝屋川高校の置かれている位置づけから見て、もっと進学、共通テストの成績向上にシフトした内容であっても良いのでは。計画に記載されている内容にもっと具体的で大胆な取組みや指標があっても良いのではないかと考える。
- ・意見を反映した計画となっており、これを実践して振り返り。次につなげていくことが重要。
- ・今年はコロナ感染症の脅威にさらされて学校現場も年間計画(教育課程、行事、研修会等)も根底から覆されてしまった。新たな常識が新たな視点が備わったという点においては、得るものがあつたとは考えられるが、資料2(令和2年度の評価)を作成するにあたっては非常に苦しい1年間であったと拝察する。
小中学校においても教育相談や生徒のメンタルケアに心を配るとともに最終学年生徒の進路指導については細心の注意を払って取り組んでいる。
田尻校長を中心に貴校の教職員が一丸となって令和3年度学校経営計画を推し進めていかれますよう期待する。令和4年スタートの新カリキュラム、観点別評価については高校の学びが大きく変革されるきっかけとして、非常に大きな意味があることだと思う。
- ・コロナ禍の中にあつて、寝屋川市立の小中学校に、幼稚園において様々な制約がある中、校長先生方のご尽力で学校園の運営が行われた1年だった。寝屋川高等学校におかれても、このような状況下ではあるが、田尻校長のもと、着実に教育を進めておられることに敬意を表す。
寝屋川高校に入学する生徒は大半が大学へ進学希望をしていると思う。教育の評価は進学実績のみが全てとは考えてないが、保護者の期待はその点が大きいのかと思う。

【授業力向上のための取組】

- ・グループウェアの活用による生徒のふりかえりをすぐに反映できたのは全体の利益につながる行動だったと思う。特定の教員だけに負担がかから

府立寝屋川高等学校

	<p>ない仕組みの構築が無理のない継続に結び付くのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの評価の高い人の授業を見たい。とあるように先生同士で様々なノウハウを高め合ってほしい。コロナ禍で大変だったと思うが、研究授業は可能な限り実施すればよいと思う。 <p>【後期授業アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を使うメリットが生徒には、よく理解されていると感じた。 ・授業アンケートも少し良くなっている。また自由記述でコメント数は少なくなったが、改善点が減少したからか。 ・平均値は教科別も学年別も大きな差はないので、飛び出て「悪い」「良い」はないのだと思われる。「4」「1」が多くついている項目があれば、気にしてほしい。 <p>【新型コロナウイルス感染症関連】(修学旅行・オンライン授業関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方のご苦勞が伝わってくる。粘り強く生徒への教育の機会を確保するように努めておられるのに頭が下がる。コロナの終息を願う気持ちと共にこのピンチをチャンスととらえ、オンライン化を進める追い風とする姿勢でいたいものだと思う。 ・今年は先が見えない中、先生も生徒も大変だったと思う。行事も二転三転して、かわいそうだったが、皆同じ条件なので、できることで充分楽しんで思う。(3月実施予定の)日帰り修学旅行に行けることを祈っている。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方、頑張られていると思う。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力を伸ばす	<p>(1) 学力向上を図るための組織づくり</p> <p>(2) 「寝屋川スタンダード」の策定</p> <p>(3) テンミニッツの活用による学習習慣の定着</p> <p>(4) ICT機器の活用、授業形態や授業方法の研究で系統的・効果的な教科指導の確立</p> <p>(5) 公開研究授業(内外)など研修の実施で「授業力」向上</p> <p>(6) 講習、補習の計画的実施</p> <p>(7) 新学習指導要領、大学入学共通テストに対応した準備と対策</p>	<p>(1) 学力向上委員会の組織を機能的に運用する。</p> <p>(2) 各学年・各教科で3年間の学習目標と計画を策定し、生徒・保護者に示す。授業の実施にあたっては、共通事項を決め実施する。</p> <p>(3) 始業前の10分間を学習習慣定着の時間に充てる。</p> <p>(4) ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業わかりやすさや効率・集中力を高める。ICT活用促進のための研修を実施する。その際、積極的に活用している教員を講師とするなど、相互の教員力向上を図る。</p> <p>(5) 公開研究授業・研究協議を全教員で実施し、「授業力」の向上を図る。</p> <p>(6) 講習を計画的に実施し、授業以外のサポート体制を充実する。</p> <p>(7) 新しい学習指導要領の研究、主旨を全職員で共有し新しい教育課程作成に取り組む。大学入試制度改革の研究および対策について検討</p>	<p>(1) すべての教科において研究授業・研究協議を実施(教職員自己診断)組織的に取り組む65%以上(H3163.5%)</p> <p>(2) 学校教育自己診断(生徒・保護者)「方針や活動・計画を分かりやすく示している」生徒80%保護者85%以上(H3179%・83%)</p> <p>(3) 授業アンケートの「授業に集中」の項目で87%以上(H3185%)</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断における、授業に関する満足度「教え方の工夫・授業がよくわかる」を86%を維持する(H3186%)</p> <p>相互授業見学週間の実施 全教科での研究授業の実施</p> <p>(5) 大学入学共通テストの全国平均に対する得点率R2年度比で10%アップ</p> <p>(6) 生徒向け学校教育自己診断の「講習や補習」91%以上</p> <p>(7) 進路指導部を中心とした検討会議を定期的実施し職員に発信</p>	<p>(1) 各教科に対して教科指導研修(9,10月)を実施後、研究授業・研究協議(1月)を全教員を6班に分けて実施 教科指導に関するノウハウを教科内で共有することができた。また、研究授業においても教科を越えた授業力向上に向けた研鑽となった(教職員自己診断)組織的に取り組む69.8%(◎)</p> <p>(2) 昨年に引き続き策定した。保護者への提示には至らなかったが、生徒へは6月に提示し、目標を上回った。「方針や活動・計画を分かりやすく示している」生徒88%、保護者89.3%(○)</p> <p>(3) 年間通して実施。効果をあげるため、年度当初に意図・目標を教員・生徒と共有。授業アンケートの「授業に集中」の項目で88%(◎)</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症による休校に備え、グループウェアを活用した課題のやり取りや授業での活用、或いは動画作成についての教員研修を実施し、実践した。授業に関する満足度は86.6%で昨年を上回った。コロナ禍の影響もあったが、相互授業見学週間を実施した(◎) 全定共通授業見学週間を1月に1週間実施。勤務時間の関係から参加者が全日制2名、定時制10名と少数であったが、授業力向上のためだけでなく、異なる過程での良い交流となった。</p> <p>(5) 大学入学共通テストは全国平均は上回ったが、R2年度比では3%ダウンであった(○)</p> <p>(6) コロナ禍の影響を受け、授業日数確保のための土曜授業の負担を考慮し、土曜講習は中止した。3年生に対しては、夏季に8講座、冬季に7講座を開講できた。「講習や補習」87.3%(○)</p> <p>(7) 新入試制度やコロナによる変更点・注意点を保護者・生徒に随時発信(各種説明会・進路講演会等)(○)</p>

府立寝屋川高等学校

<p>2. 能動的に学ぶ姿勢を身につける</p>	<p>(1)進路指導機能の向上</p> <p>(2)生徒主体の活動の充実で自立心や主体的に行動する力の育成</p> <p>(3)人権尊重の精神や国際感覚の涵養</p> <p>(4)生徒のコミュニケーション能力の育成</p> <p>(5)社会貢献やボランティア活動、各種コンテストなど積極的参加の推奨</p> <p>(6)文化的・芸術的活動や読書活動の推進</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣・規律（挨拶、時間、清掃、感謝、貢献）が将来の進路実現に繋がることを日常的に全職員で指導に当たる。 学年団を中心に、総合的な探求の時間を活用し、将来の職業選択に生きるキャリア教育を進める。</p> <p>(2) 生徒会中心に全日制と定時制の連携を図り、協働の取組みを行う。 近隣の小中学校や地域との連携の方法を模索し実施</p> <p>(3) 人権研修の在り方を探求委員会で検討し、全体計画を作成する。 3年間を見据えた人権教育の構築と組織的な国際交流活動の充実</p> <p>(4) ICT 機器を活用し、プレゼンや発表の機会を校内外で実施する</p> <p>(5) 授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。 寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進</p> <p>(6) 2年生の芸術鑑賞、3年生の文楽鑑賞のほか文芸Gが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼び掛ける。</p>	<p>(1) 全職員で実施 生徒の学校教育自己診断「進路選択について相談する機会」85%以上 (H31 83.5%)</p> <p>(2) 生徒の学校教育自己診断「学校行事に積極的に楽しく参加」88%以上(H31 86.5%)</p> <p>(3) 人権教育の評価(生徒) 90%以上 (H31 89.9%)</p> <p>(4) 総合探究授業、修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語コンテスト実施 肯定82%を維持 (H30 82%)</p> <p>(5) 校内コンテスト実施 外部のコンテスト等への参加および参加促進 寝屋川市や小・中学校との様々な連携</p> <p>(6) 全員対象の読書コンクール 読書マラソンの実施</p>	<p>(1) 進路行事として、キャリア教育を1年は4回、2年は5回実施。進路ガイダンス、各種説明会を通して6回実施全職員で実施 「進路選択について相談する機会」87.7%(◎)</p> <p>(2) 定時制生徒会との「命・絆」をテーマとした共同制作物を文化部発表会にて展示。全定双方とも好評価であった。「学校行事に積極的に楽しく参加」90%(◎)</p> <p>(3) 全校生徒を対象2件、各学年1件ずつの研修行事を実施。障がい者問題、労働者の人権、LGBTQ、ハンセン病回復の人権、在日外国人、国際人権、同和問題、拉致問題を実施した。 人権教育の評価(生徒) 90.7%(◎)</p> <p>(4) 感染症対応で計画していたことが進まず修学旅行は中止とした。人権探究学習、英語スピーチコンテストは計画に注意を払い実施した。 肯定84.9%(◎)</p> <p>(5) 校内コンテストは感染症対応で実施せず。 大阪教育大学主催の作文コンクールで最優秀賞受賞。大阪府献血啓発作品最優秀賞ほか複数受賞 (○)</p> <p>隣接する小学校との交流事業は実施できず。</p> <p>(6) 3年生に対し読書感想文コンクールを実施した。校内選考で優秀作品として選ばれた作文は図書館報に掲載した。その作文はコンテストに応募したものの入賞作品はなかったが、コンクールに向けた呼びかけに対して積極的に取り組んでいた。 読書マラソンは31名の申し込みがあり、うち8名が達成した。(○)</p>
<p>3. 学校力のパワーアップ</p>	<p>(1)新分掌の充実と横断化・全体科するためのシステムづくり</p> <p>(2)目標と成果の共有とRPDCAサイクルの定着</p> <p>(3)職員研修の充実による教員力の向上</p> <p>(4)教育相談機能の充実</p> <p>(5)学校広報と情報発信機能の充実</p> <p>(6)「働き方改革」の検討を進める</p>	<p>(1) めざす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設け、教育全体を見据えた業務の連携を探り、組織的な取組みを構築する。</p> <p>(2) 学校教育自己診断、学校運営協議会の意見等を学校運営改善に反映させる。「総括」に見える化</p> <p>(3) 次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダーをけん引役として実施し相互向上を図る。 中堅教員を初任者研修の一部の講師とし相互の育成を図る。経験の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。 府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。</p> <p>(4) 教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める。</p> <p>(5) 学校紹介 PP や学校案内(次年度向け)のリニューアル 寝屋川市や地域との連携で生徒の活動を支援する。</p> <p>(6) 働き方改革について検討する。</p>	<p>(1) 目標共有にかかる職員自己診断結果 70%以上 (H31 64%)</p> <p>(2) RPDCA サイクルにかかる職員自己診断結果 50%以上 (H31 42.3%)</p> <p>(3) 実施回数と振り返り 5回以上</p> <p>(4) 職員自己診断結果(教職員 87%以上(H31 81%) (生徒)80%以上(H31 78%)</p> <p>(5) 生徒や経験の少ない教員なども参画し、学校案内の改定、H30改定のHPの内容の生徒の活動等における更なる充実を図る。 寝屋川市や地域と連携した生徒会活動</p> <p>(6) 時間外勤務時間を昨年度比5%減</p>	<p>(1) 進路部から年度当初に学年進路と年間目標を作成し、学年及び部内で共有 目標共有にかかる職員自己診断結果は昨年を上回ったが目標に届かず68.8%(△)</p> <p>(2) 学校運営協議会での意見等を職員に対して明確に示せなかった。 RPDCA サイクルにかかる職員自己診断結果39.6%(△)</p> <p>(3) 感染症対応の影響もあり、外部も含め集合しての研修は実施できず。 中学生に対する学校説明会は感染防止に配慮して3回実施し、個別相談を複数回実施したが当初予定していた回数が実施できなかった。(○)</p> <p>(4) 教育相談に関する研修等は実施していないが、配慮を要する生徒が増加しており、支援のためのケース会議を含め、共有する機会を増やし対応した。(教職員)79%(△) (生徒)84%(◎)</p> <p>(5) 学校紹介については、外部産業主催の説明会、中学校からの依頼出前授業を含めた広報活動、本校における説明会等を実施した。オンラインで対応するために、学校紹介動画を作成中(○)</p> <p>(6) 時間外勤務時間を昨年度比5%減</p>